

令和7年度 第1回羽曳野市子ども読書活動推進委員会会議録（要録）

日 時： 令和7年9月2日(火) 13時30分～14時45分

場 所： 羽曳野市役所 A棟中・東会議室

出席者：（委員）大西委員、木下委員、佐原委員、高崎委員、永尾委員、鳴橋委員、
藤井委員（五十音順）

（教育委員会）村田教育長、藤田生涯学習部長

（事務局）藤本館長、竹中課長補佐、岩佐再任用職員

欠席者： 江川委員、島委員、前田委員

傍聴者： なし

【次 第】

1. 委嘱状交付式

2. 開会

- ・教育長挨拶
- ・事務局より、会議録の要録をWEB及び中央図書館にて紙ベースで公開すること、記録のために会議の録音及び写真撮影を行うことの報告
- ・委員の紹介、出席者7名で委員会成立の報告、事務局職員の紹介

3. 議事

- (1)会長・副会長の選出
- (2)会長就任あいさつ
- (3)第4次羽曳野市子ども読書活動推進計画の進捗状況について
- (4)その他

4. 閉会

生涯学習部長あいさつ

【報 告】

○第4次羽曳野市子ども読書活動推進計画の進捗状況について

配布資料「羽曳野市子ども読書活動推進計画に関する進捗状況」に基づき説明。

○事前質問

進捗状況3ページ「乳幼児健診等を通じて絵本の読み聞かせや絵本の配布」

ブックスタート事業について、現時点での利用状況や利用者の反応、また実施してみても課題等がもしあればお教えてください。

→配布資料「事前に提出いただいたご質問」に沿って経緯説明。

4月11日から事業をスタートし8月22日までで合計10回開催。

これまでの絵本の配布冊数は合計で226冊。読み聞かせ参加人数は88組。1回当たり

の絵本の配布冊数は、概ね 23 冊、絵本の読み聞かせへの参加は 9 組で参加率は約 39%、4 割近い方の参加となった。

利用者の反応は、大方大変喜んでいただいているという印象。読み聞かせでの状況については、赤ちゃんが実際に本を目で追ったり、時には笑顔を見せたり興味を示している様子が窺えた。ボランティアの方から読み聞かせの仕方を学び、子育ての悩みやちょっとした相談事などをお話される場にもなっている。

課題としては、ブックスタート事業はきっかけ作りであり、実際は各家庭において読み聞かせを継続してもらい、子どもたちの読書の習慣化につなげてほしいと考えているため、家庭での活動が大切であり、子どもの成長に従って取り組みを進めていく必要があると考える。一つの例としてセカンドブック事業、サードブック事業といった子どもの成長に沿って取り組むことが読書の習慣をかたちづくることになり得ることから、その支援を行うことが大切だと考えている。

【意見等】

- ブックスタート事業について

日本にブックスタート事業が導入されて 20 数年が経ち、ブックスタート事業が再開されて非常に良かった。

全国調査の結果とか、或いは 10 年 15 年と重ねてきて、このブックスタートがどんな効果をもたらしているのかの調査報告書が W e b で全て読める。是非 N P O ブックスタートという団体の資料を羽曳野市のブックスタートを考えるにあたって参考にしてほしい。

- 子ども読書に関わるボランティアの育成と活動支援について

進捗状況 3 ページ、『重点事業④で子ども読書に関わるボランティアの育成と活動支援』のところで、ブックスタートにも関わって大切な役割を担っておられるボランティアさんについて、よく、他の自治体で次の世代がなかなか見つからず継続が課題とお聞きすることがあるが、メンバーの入れ替わりや新しくメンバーに入ってくれる方など近年どんな状況でしょうか。

→ボランティアグループ「はびきの」では、皆さんパート等で働きながら参加してくれている。いろんな働き方があるなか、働きながらも午前中だけや空き時間、空き曜日にボランティア活動をしてくださる方々がおり、空き時間を有効に使ってボランティア活動に参加してもらえるとありがたいな、増えたらいいなと思う。

- 進捗状況 4 ページ、『障害をもつ子どもへのサービスの充実及び外国語を母語とする子どもへの資料提供』について

やさしく書かれた日本語とか、配慮された資料を「りんごの棚コーナー」として一か所作っておられる図書館が増えたと思います。場所は広くなくていいですが、分散していると市民の方に伝わらないので、外国語を母語とする方や何らかの原因で読書が困難な方にむけた「りんごの棚」の取り組みをしているのか。

→陵南の森図書館では「りんごの棚」を昨年度より設置している。

（「りんごの棚」と多文化サービスの資料（写真）をいれておきます）

- 進捗状況 6 ページ、『学校司書教諭の全校発令に向けた取り組みや研修』について

→学校司書については12学級以上の学校は、学校図書館法上の必置だが、これは「12学級未満でも必置にする」ということの目標なのか、司書教諭ではなく、学校司書の読み間違いか。

→担当課の委員が欠席のため後日確認のうえ回答させていただく。

- 本校は、すべての学年が1クラス、全学年で6クラスであり、司書教諭は1名配置されており、司書教諭の先生と学校司書で相談して学校の取り組みを決めている状況。
- ボランティア活動として、ブックスタート事業はもちろん、8月に夏休みの学童のおはなし会に13校行ってきた。子どもたちを低学年・高学年に分けて絵本選びやパネルシアターなど意外と長い時間のお話も集中して聞いてくれた。また、子ども達も一緒に楽しんでくれているという実感があっていいなと思った。

ブックスタートでも、赤ちゃんがどこまで気に入っているのかわからないけれど、じっと見ていて本をつかんで離さない状態を見た親が「本が好きみたいや、本にこんなに反応するのか」との感想があったので、図書館で貸出カードを作れることを伝えたらすぐ行動なされた。効果はあると思った。

- ブックスタート事業でのこと、赤ちゃんが本の色に目がいく、言葉に反応する、笑ってくれるといった様々な反応があるなか、親も楽しんでくれているのを感じ、やっている方も楽しめた。

陵南の森図書館は、絨毯コーナーもあり赤ちゃんでも気にせず使える結構広いスペースがあるという情報などを伝えたりもしている。小学校でおはなし会をさせてもらうが、学童保育は児童数に差があるし年齢幅もあるので、そこは工夫しながらやっている。

全学年で楽しめるようなお話とか絵本とか持っていくと学童の先生が「あれ面白かったね。ちょっとメモして、また借りてこよう」という声を聴けてすごくよかったと思った。